
花咲く日

一理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花咲く日

【Nコード】

N8366J

【作者名】

一理

【あらすじ】

彼は毎日同じように起きて同じように行動する。それは彼だけじゃなくてみんなに言えること、見守っているコッチまで退屈に感じる人生だけ。彼らはそれでも一生懸命生きようとしているんだろう。

土日以外はいつも同じ時間に起床し、たいてい同じ時間に就寝につく。毎朝同じように準備を済まし、時間ぎりぎりに間にあつように自転車のまたがりペダルをこいでいく。そして同じようにいつもとそう変わらない教室風景に身を溶かす。

彼はいつも部活用の鞆と学校用の鞆二つをもって学校に登校している。

きつと、ここらへん近くに住んでいるんだろう。

彼は何部なんだろう？

彼は何年生なんだろう？

高校の門を入っていく彼の背中を眺めるのは、これで何回目なんだろう。

そう思うのも、何回目なんだろう。

こうしてそう数を考えいつも答えられず、自嘲することができるのは、あと何回あるのだろう。

彼はよくこの道を通る。

彼だけじゃないけど、彼が一番印象に残っている。

彼が小さいとき、一度だけ話しかけてきてくれたことがあった。

そして、彼は微笑んでくれた。

綺麗だね。と

もうすぐ散ってしまうだろう。

彼はもう一度気がついてくれるだろうか。

それとも彼ももう世間と同じように『大人』という歯車になってしまったのだろうか。

『大人』は忙しい生き物で、少しの時間も休むこと無く動いている。だから気がつかない。だから興味ない。

立ち止まる余裕が無いのにそれでも生きていたのだろうか。わからない

止まって見上げることしかできない存在にはそれは不可解で不思議で、つまらない。

変わることも、変わらないもののほうが面白い。

でももう、微笑んでいることはできない。

さあ、そろそろ眠りにつこう。

最後にもう一度彼をちゃんと見たかったが、それでもまあいい

「あれ？」

彼は気がついた。

「今年は、芽ださなのかな、ココの桜綺麗で好きだったのに……」

さよなら、おやすみ。また花咲く日に

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8366j/>

花咲く日

2010年10月9日11時47分発行